



Close up



座禅は座布団を2枚重ねる。  
中大多摩キャンパスCスクエア5階和室での出張座禅

# 必見 海外勤務志望者 座禅と茶道の底力

## 中央大学五葉会

座禅と茶道—その存在を知ってはいても、いざその場に入ると何をどうしていいかわからない。

先輩たちによると、海外勤務者は外国人から、日本人なら誰しものが座禅や茶道の心得があると思われ、慌てたそう。

以下は座禅と茶道を部活動とする中央大学五葉会からのレポートだ。

「五葉会」この言葉からあなたはどのようなサークルを想像しますか？

多摩キャンパス4号館4405室。部屋一面に畳が敷かれているこの部屋で、五葉会は座禅とお茶を行っています。

3つのキーワードを基に、五葉会の魅力を紹介していきましょう。

最初のキーワードは「歴史」です。実は五葉会、ことして86年目を迎える中央大学の中でも古参なサークルの1つなのです。そもそもの始まりは、1928年にまでさかのぼります。

当時、道を求めた5人の学生が、中央大学で講義をしていた立田英山先生の下に集まったのが始まりです。サークルの名前は、禅の言葉にある「一華開五葉 結果自然成」から命名されました。

その後、部員数が今の倍以上在籍し、会則なるものが存在していた時代や、廃部の憂き目を見た時代など栄枯盛衰がありました。数年前に本格的に復活して以来、現在では、順調に会員数を増やしながら再び軌道に乗りつつあります。

そのような長い歴史を持っているため、多くの幅広い業界で活躍しているOBやOGがいて、他大学サークルとの交流も持っています。一時そのつながりは断たれていましたが、五葉会の復活以来、それぞれのつながりは、再び進行形で深くなりつつあります。

普段なかなか知り合う機会のない、多くの他大生や年上の人といろんな話をする事ができる。「歴史」を積み重ねてきたサークルの強みかもしれません。

# 【一華開五葉 結果自然成】

## 座禅は贅沢な時間

2つ目は、「機会」です。みなさんはこれまでに座禅や茶道を体験したことはありますか？高校時代までに座禅や茶道に接する機会は、非常に稀だと思います。しかし大学では、やってみたくてという好奇心と部室の扉をノックするほんの少しの勇気さえあれば、誰もが気軽に体験することができます。

時間に追われながら生活しているなか、忙しさから遮断された空間で何も考えずに座禅をして自分を見つめる。または、禅や茶道に関する本を

皆で輪読し、その奥深さを知る。

中央大学、そして五葉会には、そのような贅沢な時間の使い方を体験する「機会」が用意されています。最後のキーワード。それは「人」です。

五葉会には14人の会員が在籍しています。スポーツマン、公務員試験に向けて勉強をしている人、起業を思索している人、ゲームクリエイターを目指している人などなど。価値観や背景の異なるメンバーが、それぞれの動機から縁あって同じサークルに集っています。そして、全員が毎週の活動に出てくるわけではありません。特別なイベント時に参加する人、飲み会に参加する人など、それぞれが

活動しやすいカタチで五葉会に関わっています。ある種、これだけ変わっていて自由な「人」たちに出会えるのが最大の魅力とも言えます。

新たな知見や、世の中にはこんな面白い人がいるのか!といった発見と驚きが味わえて、自分の世界が広がる「大学の中の大学」のような場所です。

少しでも五葉会に興味を持った、そのあなた!ぜひ、一度4405室まで。  
(中央大学大学院経済学研究科 代田知之)



## 1年生会員の話

ほし たかのり  
文学部哲学専攻 星 貴伯さん

茶道は中学時代に知り、大学に入ったら始めようと思っていた、「坐禅と茶道」とある五葉会のポスターを見ました。座禅はよく分からないけれど行ってみようと思い、五葉会の門をたたきました。

茶道は、先生に稽古をつけていただいたのはまだ1回ですが、定例会活動でお茶を嗜むなかで、心が静かになり、すべてのものに感謝するようになりました。

座禅では何も考えないことに集中する。こんな時間は普段の生活にはありません。なかなか味わえない時間です。座禅を始めて生活リズムが規則正しくなって、これがすごくいいので、朝、自分の部屋で座禅をします。一日が気持ちよく過ごせます。

当初は足が痛かったのですが、京都合宿で大衆禅堂に参加した際、『頭から吊られているように』というアドバイスを受け、背筋が伸び、楽になりました。

茶道で日本の伝統文化を知り、座禅で心を鍛えています。

## ポスターから見る五葉会の顔

ペデ下には数多の掲示板がある。10月上旬現在の掲示板では、白門祭のコンサート、観戦、ビジネスコンテストの募集、戦記研究会による勧誘ポスターなど様々なものが見られる。こうした数多くのポスターが掲示板にひしめき合う中、五葉会のポスターもひっそりと存在する。それも、マナー悪き他の団体に重ね貼りされたりなどの艱難辛苦を味わいながらの存在なのである。五

葉会のポスターはサークル勧誘の一つにカテゴライズされるが、他のサークルとは一線を画するものを活動内容に加えている。それは、「坐禅」である。

五葉会の他に坐禅サークルが存在する大学は一橋・早稲田・学習院・東大くらいであるから、如何に異様な存在であるかお分かりであろう。五葉会は「坐禅」と「茶道」をワンセットにして行う部会であるから、

他の坐禅サークルともちよいと毛色が違うのである。

では、そんな五葉会のポスターとは…? 以下、見てみよう。

ここで「おや?」と思われた方もおられるのでは? タイトルの部分で「坐禅のスズメ2」(次のページ)となっているのである。「2」があるなら「1」もある筈。勘が良い人は気付いたであろう。実は春学期と秋学期に五



# 座禅と茶道の底力 中央大学五葉会



秋学期のポスター

葉会はポスターを1枚ずつ打ち出しており、春学期のは「坐禅のススメ」、秋学期のは「坐禅のススメ2」としている。そういう絡繰りにより、「2」が出ているのであった。

では、春学期のポスターを見てみよう。

2つのポスターに共通して言えることは、中大生諸君に手紙形式で五葉会へと勧誘している点だ。内容は春・秋とも似通った

ものであるが、要は茶禅一味を目指す中、己の人間形成を図ろうというサークルなのである。秋の方の内容に深みが出ているのは、作成者の己がそれだけ禅について学ぶ契機を得たから。会活動に坐禅と茶道を据える五葉会は真、奥深い。

五葉会は今年86周年を迎える部会とは言え、なかなか波乱万丈な歴史を持って

る。極め付けが誰も入会者がいなかったため(他の事項もあったが)、廃部に追い込まれたことがあったという事態。OBOG方の運動により、なんとか入会者ができ、その危機は回避できたのであった。現在は復活の路線上にあり、さすがに往時の勢いはないものの、14名の会員に恵まれている。因みに往時の五葉会は30名以上いたようで、

## KYOTO

### 京都合宿感想2014年

河合 紳(法学部2年)

僕にとって、今回が初めての京都観光でした。関東の中学校では、修学旅行に京都を訪れる事が定番のようです。しかし、中学生の段階では、歴史や日本文化についての知識が浅いため、よほど綿密に事前学習をしない限り、京都に行ったとしても十分に楽しむことができないように思いました。今回は、大学受験を通して、日本史に関する勉強をしてから京都を訪れたため、建造物の世界遺産としての価値がわかり、京都観光を楽しむことができました。

京都では、多くの歴史的な価値のある建造物を見学しました。そして、全ての建造物は当時の流行や利用目的によって、多種多様な特徴を持ち合わせていました。二条城は徳川将軍家の京都での居城であったため、豪華な造りになっていました。部屋の間取りは大きく取られ、

壁や天井には意匠をこらした装飾が、彫刻や金を用いて施されていました。また、屋根瓦には、葵の御紋が彫られていて、京都の街を見張っているようにも感じました。

また、禅宗様のお寺は、あまり華やかな装飾は施されてはいませんでした。しかし、南禅寺の三門など、大きな古い木造建築の建築物からは威圧感が感じられて、下から見上げると息が詰まるようでした。また、建仁寺には、透かし彫りや花頭窓など、禅宗様式ならではの装飾があり、伝統を感じました。また、中に造られた回遊式の庭園は、緑が使われている部分と枯山水に分けられていました。どちらも居心地が良く、ぼうっとしていたら時間が過ぎてしまいました。

銀閣寺の庭園では、自然が縮小サイズで表現されていて、小さな林や川が作られていま

た。庭園を歩いて周っていると、まるで自分の体が大きくなったように感じました。そして、人工的に作られた林や川は、次第に、裏山の本物の自然と交わって行って、庭園と裏山の境界線が曖昧でした。

いくつか歴史的な庵も見ました。富を持っているはずの人々が、あえて四畳半の小さな空間に趣を見出したことは、外国の文化にはみられない日本ならではの文化であると感じました。

そして、合宿の後半には、妙心寺の宿坊で一泊しました。宿坊とは、お寺にある僧侶や参拝客のための宿泊施設のことです。予約をすれば、一般の観光客でも宿坊に泊まることができます。宿坊では、小さな命も大切にしていました。たとえば、電気や水を作る過程で、開発などによって、多くの生物の命が犠牲になっています。だから、

# 【一華開五葉 結果自然成】

一目瞭然!

## 中央大学五葉会

部会名	五葉会(ごようかい)	
創部年	1928年	
部長	土田伸也	
監督・指導者	—	
主将・委員長	鈴木華子	
主務	—	
部員数	14人	
活動場所	・会室4405(4号館サークル棟)にて 定例活動の坐禅・茶話会(お茶を嗜む程度) ・たまにCスクエア5F和室等で出張坐禅等有	
部室・連絡先	会室4405(4号館サークル棟) 鈴木華子(法3年) a12.rmw@g.chuo-u.ac.jp	
活動日時	春学期は火曜昼休み・3限・4限を中心に活動。秋学期は火曜昼休み・3限、金曜6限(金曜の方は活動時間等に変更の恐れ有。下記の五葉会ブログをご参照下さい)に活動。火曜昼休みに弁当を持ち寄っての談笑。3限より、30分の坐禅。終了後は茶話会、「禅語」「茶味」輪読の予定。 金曜は時間が合わない会員向けなので火曜と活動内容は同じです。	
年間部費	¥6,000(半期¥3,000×2)予定	
部会紹介プロフィール	我ら五葉会は創立1928年という、中央大学の数多あるサークルの中でもなかなか息の長いサークルです。主な活動は坐禅と茶道。茶道もやるので女子が多いのかと思いきや、男子が大多数を占めます。(坐禅で逃げる女子が多いです) 世間一般における坐禅のイメージはあまり良くないです。“足が痛くなる”、“動いたら叩かれる…”といったイメージを浮かべる方が多いようですね。確かに長く坐禅をしていると足は痛くなるわ、あまりにウトウトしているとか叩かれます。(叩くのは体の筋肉をほぐすため決して罰の意で叩いているのではないのだと注意しておきます)されど!実際は違うのですよ!坐禅は医学でも注目されていて、心身両方の新陳代謝系を強化するのです。また、日本の「道」の付く文化は坐禅を基本としているのです。我らは坐禅で得た力を茶道に昇華しております。精神修養が「道」の付く文化の最終目的なのです。会員は通年募集中。志ある諸君、我らが五葉会の門戸は常に開かれております。	
部会の目標	坐禅と茶道を通じた精神修養	
年間活動予定	4月 新歓活動 5月 鎌倉円覚寺にて学生坐禅会 8月 岐阜合宿 奥田正造先生顕彰茶会に参加 9月 京都合宿 10月 八王子禅東院にて摂心 11月 白門祭(講演会・茶会) 12月 千葉・市川本部道場にて摂心 1月 岐阜OB宅にて初釜茶会に参加 2月 八王子禅東院にて摂心 他に毎月1・2回、八王子の先生宅にて茶稽古(表千家流)や週単位の定例活動も御座います。	
近年の実績	2013年6月に福島祥朗氏(中央大学OB)にして、オリエンタルランド(元社長)をお呼びして講演会(題は「日本の「和」について」)を開きました。2013年10月には五葉会創立85周年を記念して講演会を開く予定でしたが、台風にて中止。されど次の白門祭につなげるべく鋭意努力している次第です。	
オリジナルサイト	<a href="http://goyokai.blogspot.jp/">http://goyokai.blogspot.jp/</a>	

[表記]坐禅の表記は、常用漢字使用を基本とする新聞記事に倣い、座禅としました。(編集部)

人々に妖怪部会などと呼ばれていたようである。五葉会のOBOGを見渡すと100歳超のおじいがおられるくらい。

しかし、坐禅という会の気質から来るのか、昔から五葉会は野郎の数がやけに多い。それも、融通の利かぬ輩ばかりだったらしい。以下、ある関係者の談。そのお方はお茶の先生でもあるので、お庭に茶花があり、お茶の稽古がある時などはお庭の茶花を使うのが常であったそうだ。庭というものは放っておくと雑草がジャンジャン生える。困った先生は当時入り浸っていた五葉会の連中(やはり野郎ばかり)に庭の草取りと肥料播きを命じた。しかし、何を血迷ったか五葉会の連中は大切な茶花を雑草と間違えて引っこ抜くわ、肥料は一箇所にぶちまけるわ(本来なら少量ずつ土にかぶせて播く)で大変な騒ぎになったらしい。…現在もその気質を受け継いでいるのではないかと疑う会員はちらほらいる。遺伝でないのに、げに恐ろしい。

一方、五葉会には昔から女性がいるにはいるが、野郎よりもその数がかかなり小さい。私が推定するに、まず「茶道」でフラフラ寄ってくるのだが、最終的に「坐禅」で逃げて行っている。「坐禅」はだとも負のイメージが強いうで、あまりイ話を聞かない。読んでいる貴方様も、もしかしたら御多

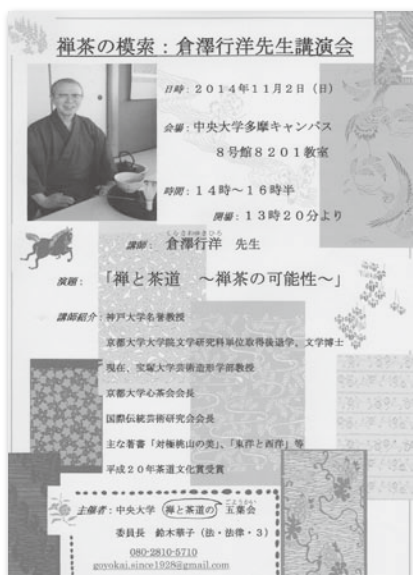
分に洩れないかもしれないが、そのイメージ、ほぼ間違ってますぜ。(反論は別の頁に譲るが)とにかく、女性少なきことは今も昔も五葉会の悩みの種ではある。

以上、五葉会ポスターから五葉会の顔なるものをご紹介します。

秋学期は火曜昼休み・3限、金曜6限(金曜の方は日によって時間に変動あり)で活動を行っている。

我ら五葉会の活動に乞うご期待。  
(もちろん入会も受け付けておりますよ)

五葉会委員長 鈴木華子



白門祭で講演会を開催します。ぜひ、ご参加ください



た。おそらく、僕自身も同じように上の世代の方たちの刺激になっていたと思います。しかし、終わってみると、案外疲れは残っておらず、すっきりした気持ちで最終日を過ごすことができました。今回の京都観光を通して、やはり、自分は建築のことについての知識が少ないことがわかりました。次回は、日本建築に精通している人を連れて、解説してもらいながら観光をすれば、より深く日本文化について学べるように思いました。

その命に敬意を払って、電気や水の節約が徹底されていて、22時には消灯時間を迎えました。

翌日は、精進料理の体験をしました。そこでも、野菜の皮を薄くむくなど、なるべく食べられる部分が無駄にならないように心がけました。

最後の晩から朝にかけて、妙心寺の大衆禅堂に参加しました。大衆禅堂とは、お寺の近くの建物に一泊して、そこで、夜と朝に座禅を組むことです。他にも参加者はいました。下は小学生から上は高齢の方まで幅広い年代の人が一つの堂に集まり、座禅三昧しました。中には、外国人の参加者の姿もありました。正直なところ、合宿の疲れもあって、長時間の座禅はしんどく感じることもありました。しかし、小学生の男の子が黙々と取り組んでいるところを見て、こりゃ負けていられないなと思ひ、足のしびれと戦いま